

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100048		
法人名	株式会社 サンメディカル		
事業所名	グループホーム サンパーク笑う門 ‘そら’		
所在地	〒020-0823 岩手県盛岡市門1-15-27		
自己評価作成日	平成 26年 11月 14日	評価結果市町村受理日	平成27年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0390100048-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0390100048-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022</a>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成26年12月5日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・一人ひとりとの関わりを大切に受け入れることを基本にし、感謝の言葉‘うれしい、ありがとう’とつたえてゆったり笑っ過ごせるように支援している。会社と相談して生活状況に合わせて福祉用具、衛生用品の試供品を提供している。・健康管理として口腔ケア・排便コントロールに力を入れている。そして、食事を美味しく食べられるような、そして、目でも楽しめる盛り付けを工夫した献立にしている。水分摂取量を維持するために器の工夫、好みの水分を準備している。また、個々の生活リズムに合わせた食事時間、食べたい時を食事時間として提供している。・町内行事に参加したり、運営推進会議に町内会〃長・民生委員の出席をお願いして町内会と連携し地域住民としての生活を支援している。・自然に恵まれた閑静な住宅地に立地しており季節の移り変わりを目で肌で感じながらの散歩を楽しみ、季節に合った室内装飾、庭先の手入れ等利用様と一緒にやっている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・会社の理念に基づき、グループホームの理念を定め、また、職員一人ひとりが「日常の五心」(介護の心得)をもって、日々の業務に理念が反映されているか確認しながら、質の高いサービスの提供に努力されている。・運営推進会議では、委員からの要望で、前回の議事録も併せて提出し、課題の改善報告等、活発に会議が運営されている。・グループホーム2棟(そら・だいち)は別棟になっており、利用者にとってそれぞれが隣の家になっている。また、共有ホールの季節のクリスマスの飾り付けも、各棟の個性が表れており職員の努力が感じられる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を地域、家族とともに支援したいとしている。常に地域交流を意識して町内会行事に参加、町内産直利用、他近所での買い物をしている	理念は、会社の理念、グループホームの理念、職員一人ひとりが日々の業務で心がける「日常の五心」を、事務室、共有ホールに掲示し、意識して利用者、家族、地域の方々と関わっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板や会報をいただいている、町内、子供会行事に参加。敬老会は馴染みのボランティアさんを招待。花、野菜等をいただいたり、子供みこしをホームにしながら楽しんでいる	町内会に加入している。回覧板は利用者と一緒に持って行っている。町内の流しソーマン、子供会の廃品回収等の行事に参加している。食材等の購入は、町内の産直や商店を利用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のスーパー、産直に利用者様と一緒に買い物に出かけたり、運営推進会議をホームで行い様子を見ていただきながら認知症ケアの報告を行っている。入居の問い合わせ、相談に応じている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、町内会〃長、民生委員、地域代表、包括支援センター、家族代表に活動、入居状況、健康状態、研修、地域交流の報告をして助言を受けている。訪問看護ステーションと看取り、中野駐在所と徘徊の勉強会を行った	会議では、委員の要望で前回の議事録も提出している。課題は検討経過を報告している。また、駐在所員から、徘徊時の対応として、靴に名前、電話番号、住所があると連絡できると意見があり、名前と電話番号を記入している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	盛岡市には毎回運営推進会議録を提出。意見書開示のお願い、転倒の報告を行った。包括支援センターには毎回運営推進会議で助言をいただいている	盛岡市担当窓口には直接出向いて、運営推進会議の議事録を提出したり、利用者転倒の報告をしたり、助言をいただく等、協力関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夕方の戸締り以外施錠することなくご本人の動きを止めないで受け入れる支援をし、スピーチロックを意識し一人ひとりの位置確認の徹底に努力している。身体拘束の集計報告を職員間で確認してケアの振り返りを行っている	防犯上、夜間については施錠している。一人ひとりの位置確認を常に意識して行っている。ふらつき・転倒のあった利用者には、見守りを強化し、離床センサーを使用している。また、言葉による拘束について、注意して関わっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご本人を受け入れる事を基本にしている。周辺症状の表れに注意し、内出血があれば原因を追究してケアの見直しをしている		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームサンパーク笑う門(そらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全てにおいて受け入れることから始める基本姿勢や理念にそって振り返りをして支援している。研修会に参加して職員間で共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には目的、入院した場合、看取り、入居料金、面会等説明。それぞれのご家族が心配、不安な点を時間をかけてその都度説明している。また、家族とホームとの協力支援について説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見投書箱を置いている。面会、サービス計画説明時に家族の要望を確認している。利用者様の変化に伴う不安に対する対応に気配りしている	これまで意見箱に投書はない。家族には、面会時や介護計画説明時に、要望を聞いている。利用者の状況に応じ、看取りについての意向を確認している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のカンファレンス及び連絡ノートを活用してサービス計画、業務、勤務表等に関して意見交換をしている。業務日誌の記入者は何でも自由に記入して会社代表者に訴えたり、携帯で話ができるようにしている。	定例の職員会議はない。日々のカンファレンスや連絡ノートを活用して、業務、勤務表等に関して意見交換をしている。業務日誌には、会社代表者への意見を自由に記入できる。また、会社代表者とは、携帯電話でも自由に話ができるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務の役割を持ち責任を持って行なえるように、また、認知症ケアの不安を解決できるように助言をしている。勤務表の平等を心掛けている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護経験年数、研修歴などを考慮して計画をたて、希望を聞きながら平等に研修を受けられるようにしている。認知症ケアの不安を解決できるように助言をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会例会、ブロック会の研修に交代で参加したり、交換研修を通して交流、ネットワーク作りをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式から情報を得てご本人を受け入れることから始めている。生活リズムの声掛けをするが強制することなく、変化に注意して支援している。家族に面会の回数を多くしていただき一緒に関係作りをしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の利用者様と家族の関係を理解し相談、申込み、契約、面会時など話を傾聴することから始めている。家族の都合の良い時間に面会に来ていただいている。電話、メールで生活の様子を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報、見学時の様子からどのような支援が必要かを見極めるが決め付けずに見守りをして出来ない事、不安に思っている事等を職員間で共有して支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の生活リズムに合わせて‘一緒に’‘ゆっくり’‘急がないでいいよ’‘ありがとう’‘うれしい’の言葉を多く用いてコミュニケーションをとり支援している。出来る事の見極めに努力して一緒に家事をする。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時に家族と一緒に支えたいと説明し、相談しながら対応している。定期的な病院受診を家族にお願いしたり、希望にそった外出、外泊にしている。また、季節に合った衣類、寝具の交換をお願いして面会の機会としている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆、お正月、お彼岸、お祭り等の外出、外泊をしていただいている。面会時間、電話使用を自由に行っている。ご本人の自筆で年賀状書きの支援をしている。入居後は馴染みの場、関係作りを意識して行事計画を立てている	利用者の高齢化に伴い、意欲の低下が見られ、段々と馴染みの場所や、人との交流が希薄になってきているが、季節の行事や法事等で外泊する方もいる。傾聴ボランティアが週2回訪れ、馴染みになりつつある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に見守りをして変化に注意している。戸惑いに声掛けしたり、寄り添っている。また、いい関係作りを意識している。趣味、出来る事、興味のある事等に職員と一緒に関わる事を心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院した場合には不安がないように面会に行っている。入居後に家族の希望でデイサービス利用したり、事業所と情報交換して支援している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の変化に注意して‘どうしたいんだろう、何が起きているんだろう’と思い、表現できない思いのくみ取りに関わりを持ちながら表情を観察して取り組んでいる。同じ訴えの意味の違いに注意している	センター方式を導入し、共通シートを使って、本人の情報や気付きを共有している。言葉や表情、動きの変化を観察し、言葉通りの意味なのか真意を推し測ったり、ホールに出て来たことが排泄と食事の意味だったり、意向の把握に努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネージャー及び相談員からの情報と入居前に家族にセンター方式を記入していただき情報を得ている。様子が変わった時には家族に確認して理解に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	‘いつもと違う’の気づきをするために生活リズムシート、個々の健康管理シート、センター方式を活用して全体像の把握に努めて日々モニタリングをしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間の情報交換で課題を確認し日々経過をモニタリングして柔軟に対応している。家族には面会、計画説明時に思いを確認している。3か月ごとに計画の見直しをしている	日々のカンファレンス、連絡ノート、職員間の情報交換、個別の経過をモニタリングし介護計画を作成している。また、3ヶ月毎に見直しをし、本人・家族に説明し、思いや意向を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活リズムシートのモニタリング情報を職員間でアセスメントして、共有して3ヶ月ごとに計画を見直ししている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の身体状況に合わせて会社の福祉用具を提供、介護保険更新手続き、医療機関への受診、往診対応している。もう一つのユニット‘だいち’、笑う門デイサービスと一緒に行事を楽しんでいる		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームサンパーク笑門(そらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園に散歩に出かけて東屋でご近所さんとおしゃべりしたり、日用品の買物、産直に果物を買いに外出している。東側に広がるリンゴ畑に花見、秋のドライブにと楽しんでいる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後もご本人、家族が望む主治医に受診をお願いしている。その際には個々の健康チェックシートを活用して身体状況を報告している。また、相談員と連携をとり支援することにも心掛けている	かかりつけ医の受診は家族が行っているが、緊急時や都合のつかない場合は支援している。医師には、ホームでの生活等を報告し、診察の結果を教えて頂いている。家族の希望で、訪問リハビリを受けている方もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約をして一週間に一度健康相談、他電話で相談して助言を受けている。看護師と生活状況を共有して全体像のイメージがつくようにして連携している。推進会で看取りの講師をお願いした		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急搬送時には必ず付き添い病院関係者に緊急連絡表を使い情報提供している。入院した場合には、情報提供として生活の様子、認知症状を伝えている。面会を頻回にして安心できるように心がけている。相談員との連携に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に医療連携体制、看取りに関する指針を説明している。ご本人には、日々の会話の中で看取りの確認をしてサービス計画に載せて家族と確認している。常に看取りを意識してご本人の変化に注意して訪問看護師と連携して主治医に報告している	契約時に、家族に「医療連携体制及び看取りに関する指針」を説明している。本人には、日々の会話の中で看取りの確認をしている。重度化した場合、かかりつけ医や訪問看護の指導を受けながら対応している。また、ホームで出来ること、出来ないことを説明し理解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間計画で通報訓練(火災、地震)、AEDの使い方、誤嚥対応、ノロウイルス対応等確認している。電話の側には個々の緊急時連絡表、職員連絡網を置いている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画を立てて毎月訓練を行っている。年2回笑門デイサービスと合同訓練を行った。秋には消防署の派遣をお願いして指導を受けた。セコム火災センサーが作動すると地域住民に連絡が行くことになっている	年2回、隣接するデイサービスと合同の訓練を行っており、1回は消防署の指示で、日中の訓練を実施している。また、玄関から避難出来ない場合を想定し、居室から避難する訓練を行った。	夜間の訓練を実施し、暗い中での誘導、車椅子の介助、地域住民の協力等、経験されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	否定、注意する事なく受け入れて‘ありがとう’の言葉かけをしながらご本人の意向を確認して支援している。排泄ケアに関して気配りをして、戸口に暖簾をさげている。名前、写真等の掲示は家族に確認している	「日常の五心」を念頭に、本人の意向を確認して、支援を心がけている。名前・写真等は家族の承認を得て掲示している。本人の言葉を否定や注意することなく、さりげない言葉かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆったりした空間作りを心がけて会話、動作などで不安、精神状態をくみ取り、傾聴して生活全般、排泄、睡眠等から体調を確認し環境を整えて自ら発する事が出来るように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	年間行事、一日の生活リズムの予定はあるがご本人の希望、お天気まかせの生活をしている。起床、食事時間が個々の時間になっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った物を自分で選んで更衣できるように整理整頓、買い物支援を行っている。訪問内容でカット、顔そり、他個々の生活習慣に合わせて支援している。馴染みの美容院に外出している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3食とも準備、盛り付け、片付けを一緒に行っている。出来る事、好んで行う事の見極めを行い役割が持てるように支援している。	献立は決まっているが、野菜の差し入れがあったり、利用者の食べたい物に変えることもある。利用者と一緒に食材の準備、調理、片付けを行っている。個々の利用者の体調や生活のリズムに配慮し、食べたい時間、食べるスピードに合わせた支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が完食出来るように嚥下、咀嚼状態により食材の硬さ、大きさに注意したり、とろみをつけたり、食品交換して献立を変更している。水分摂取量維持のために好みの水分にして容器も工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の動きに合わせて食後3回口腔ケアを居室、ホールにと声かけをしている。舌、口腔内乾燥の観察をして、対応している。毎日、口腔機能向上訓練を行っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームサンパーク笑門(そらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間排泄を確認して習慣を受け入れて出来ない事の見極めをして支援している。トイレに名前を書いたパットを置いたり、麻痺の利用者様ようにトイレットペーパーを切って置いている	排泄チェック表で、排泄習慣を把握し、トイレでの排泄や自立に向けた支援をしている。自分で交換する方は、トイレに名前を書いたパットを置いている。排便後は、ウォシュレットを活用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	不穏、腹痛、痔痛の訴え、出血、食欲等を観察し主治医・訪問看護師と相談してコントロールしている。予防として散歩、軽体操、食材、水分摂取量の維持に努め排泄習慣に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	予定はあるが個々の都合に合わせている。一番風呂が好き、シャンプーしない、シャワーだけ、足だけ等に希望に応じている。ご本人の動きのタイミングをみながら声掛けしている。	週2回入浴している。清拭は、就寝前と起床時に行っている。一番風呂、シャワーだけと、利用者の希望に合わせ、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	強制はしないが昼寝を促している。季節、気温に合った寝具類の調節支援をしている。個々の様子を観察しながら夏の寝苦しい時にはアイスノン、秋口からは湯たんぽを使用している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を全職員が確認している。個々の症状を確認して主治医、訪問看護師と相談して対応している。認知症状と認知症薬、便秘、風邪薬等に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族からセンター方式を記入していただき全員が同じ事をする支援ではなく、得意な事、趣味、出来る事等の確認をして役割が持てるようにしている。コミュニケーションをとり表情を観察しながら支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の生活の中からも何をしたいのか、何を言いたいのかを感じとる努力をして、その時に求めている思いを支援している。玄関から出て行かれても見守りをして付き添っている。'どこかに行きたい。行きましょね'の言葉でドライブに出かけている	天気が良い時には、外に行きたいと言う言葉を捉え、ドライブしている。デイサービスの利用者と一緒に出かけることもある。本人の希望で、家族と外出したり、病院受診も家族との関わりの機会になっている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームサンパーク笑門(そらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム管理以外にご本人の希望があった時には家族の了解の上で自己管理としている。ヤクルトレディーが立ち寄るので支払の支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話、本人の携帯電話を利用している。自ら家族あての年賀状に名前を書いて投函している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい色の張り紙、癒しのカレンダーを飾っている。季節ごとに模様替え、花植えを行い夏はすだれを掛けたりグリーンカーテン作りに力を入れている。日々、室温、湿度、明るさに気配りをしてゆったりとした空間作りを心がけている	共有ホールには、季節のクリスマスの飾り付けがされている。各棟で、利用者と一緒に作成しており、それぞれの特徴ある作品となっている。加湿器、パネルヒーターエアコンで適切な環境が保たれている。食卓、ソファ、テレビが配置され、それぞれの場所でゆったり寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外の様子を感じとれる位置、テレビを楽しめる位置、会話を楽しめる位置、新聞、本をゆっくり読める位置、食事作りが見える位置等個々の居心地に気配りして家具、椅子の移動をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使いなれたもの、家具の準備、ベッドや家具の配置はご本人と家族と相談して決めていただいている。クローゼットの中を取り出し安いように調整したり、好みのカレンダーを準備したり、壁飾りを考えている	電動ベッド、クローゼット、洗面ユニットが備え付けられている。テレビ、掃除機、電話機、位牌を持ち込まれている方もいる。また、カレンダーや家族の写真が壁に飾られ、居心地の良さが感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動線上手すりをつけている。玄関には靴の履き替えが出来るように椅子をおいている。トイレの案内を大きく貼っている。居室の前に利用者様が書いた名札を貼っている		